

日本鑄造

大手鑄造メーカー、日本鑄造は優れた工法・製品を市場に投入するとともに、4人の一級建築士を擁する高度な設計技術力を駆使することで、広範・多岐にわたる需要家ニーズを捕捉している。

地震国・日本で安心して暮らせる建築構造物を実現するため、角形・円形鋼管柱用露出型弾性固



優れた耐震性を発揮する「NCベースP」



建築構造物の意匠性を高める「建築金物」

定柱脚工法「NCベースP」を開発。中・低層建築物向け角形鋼管柱や円形鋼管柱に多く採用される柱脚接合工法で、ベースプレートにJFEスチール製厚板を用いる。国内メーカーで唯一、柱と基礎の接合部分に下ナット方式を採用しているのが特長。上ナット方式に比べて地震エネルギーをより多く吸収する機構を有し、優れた耐震性を発揮する。柱サイズ

柱脚接合工法「NCベースP」

下ナット式で高耐震性

に対して選択できる型式数が多く、最適設計が可能だ。至近ではJR山手線の高輪ゲートウェイ駅の駅舎で採用されている。

建築金物はブレース端部や柱頭分岐接合部、トラス接合部などを鑄鋼品で手掛ける。建築物が求める形状に合わせて設計・製作し、すべてがオーダーメイド。

鉄骨加工では実現が難しい複雑形状や美観が求められる金物を、長年培った鑄造技術を生かして製作する。東京オリンピック関連は東京アクアティクスセンターや有明体操競技場、大井ホッケー競技場などで採用された。